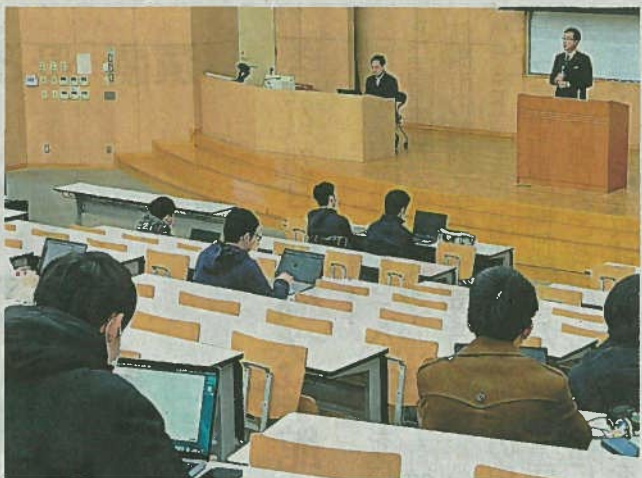


議員の活動知ろう

県議と高経大生意見交換



学生からの質問に答える大和氏

つながる要因」とした。大和氏は若者の政治への関心を高めるための県議会や県の取り組みを紹介し、「いかに身近な存在だと思ってもらえるか。議員はホームページなどを通して積極的に情報発信していく必要がある」と

した。授業には地域政策学部の学生約230人が出席。3年の河野ちとせさん(21)は前橋市出身。2人は「会って話を聞き、議員に対する印象が良い方変わった。自分も将来は地域貢献できる仕事をしたい」と話した。

ゼミナールは県議会が2020年から毎年実施し、4回目。

(佐藤秀樹)

県議が大学の授業に参加して学生の質問に答える「議員に密着ゼミナール」もつと知り

たい政治のハナシ」が21日、高崎市の高経大で開かれた。議員報酬や若者の政治参加を促す取り組みなどについて、県議3人が率直に答えた。

党の大和勲氏と亀山貴史氏、リベラル群馬の加賀谷富士子氏。

加賀谷氏は議員報酬として月65万円振り込まれるものの、事務所費の一部など支払いも多いと説明。議員に退職金はなく、4年ごとに改選されるため「収入が不安定なことが『政治とカネ』の問題に